製品安全データシート

新規作成　：2001年08月17日
改訂　　：2014年 1月10日

１．製品及び会社情報

製品名　　：ＳＤＰ－αＣＬ

製造者情報　　会社名　：三菱製紙株式会社
住所　　：〒130-0026　東京都墨田区両国２丁目１０番１４号
担当部門：技術環境部
問い合わせ窓口：イメージング事業部
印刷感材営業部（電話番号：03-5600-1475）

奨励用途及び使用上の制限　：シルバーディジプレートα用クリーナー液

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性　：引火性液体		区分３
健康に対する有害性：皮膚腐食性／刺激性		区分２
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分２Ｂ
	皮膚感作性	区分１
	生殖細胞変異原性	区分２
	生殖毒性	区分２
	特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分２（血液）
	特定標的臓器／全身毒性（慢性暴露）	区分２（血液）
環境に対する有害性：水生環境有害性（急性）		区分２
	水生環境有害性（慢性）	区分２

ラベル要素

炎　　健康有害性　感嘆符　　環境

注意喚起語　：　警告

危険有害性情報　：　引火性液体
皮膚刺激
眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害のおそれ（血液）
長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ（血液）
水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
不浸透性保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣を着用すること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
粉塵またはミストを吸入しないこと。
製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は手、顔等を十分に洗浄すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
熱／火花／裸火／高温のような着火源から遠ざけること。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明器具を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
環境への放出を避けること。

３．組成・成分情報

単一製品・混合物の区別　：　混合物
一般名　：
成分及び含有量

	官報公示整理番号	Cas No.	含有量%
１－メチル－４－イソプロペニル－１－シクロヘキセン	(3)-2245	5989-27-5	１－　５
ポリアルキレングリコール	既存	9003-11-6	５－１０
硝酸ナトリウム	(1)-484	7631-99-4	５－１０
フェニルグリコール	(3)-558	122-99-6	１０－２０
水	対象外	7732-18-5	＞５０

４．応急処置

吸入した場合　：大量のミストを吸入した場合は直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にしてください。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類を緩め呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行ってください。呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向けにしてください。体を毛布等で覆い、保温して安静に保ってください。応急措置を施したあと、速やかに医師の診察を受けてください。

皮膚に付着した場合：直ちにきれいな流水で洗い流してください。異常を感じた場合は医師の診察を受けてください。
皮膚または髪にかかった場合は、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。

目に入った場合　：直ちにきれいな流水で１５分以上洗い、炎症が残っているようでしたら医師の診察を受けてください。洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄してください。コン

タクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続けてください。

誤飲した場合　　：水でよく口の中を洗浄し、大量の水を飲ませて、直ちに医師の手当を受けてください。意識があっても無理に吐かせないようにしてください。

5．火災時の措置

消火剤　　：ドライケミカル、炭酸ガス

使ってはならない消火剤：水

特定の消火方法：禁水、灯油の火災と同様の扱いをしてください。

保護具等　　：消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用してください。
風上から消火活動を行ってください。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項：火気厳禁にし、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止してください。保護具（送気マスク、空気呼吸器、保護手袋、ゴーグル型保護眼鏡、保護面、安全帽、長袖保護服、保護長靴など）を必ず着用して回収してください。風上で作業してください。多量の場合は、人を安全に避難させてください。

環境に対する注意事項：火気厳禁にし、漏れた液を集め回収してください。回収後はウエスなどで拭き取ってください。漏出した液体や洗浄に使用した汚染水が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないよう注意してください。

除去方法　　：砂または不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収してください。回収した液は密閉できる容器に入れ廃液処分業者に廃液処分を依頼してください。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：目や皮膚に接触すると炎症を引き起こすことがありますので適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋）を着用し取扱ってください。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼、及び身体洗浄を行うための設備を設置してください。休憩場所には、手洗い、洗顔等の設備を設け、取扱い後には手、顔等をよく洗うようにしてください。

局所排気・全体換気：強制換気による換気を行ってください。

注意事項　：取扱いは十分な換気のもとで行ってください。

保管　　：キャップを確実に閉めて涼しい場所に置いてください。
火気厳禁
施錠して保管すること
子供の手の届くところには置かないでください。

8．暴露防止及び保護措置

設備対策：強制換気による換気を行ってください。

管理濃度　安衛法管理濃度　：　未設定。

許容濃度：日本産業衛生学会　　記載なし
ＡＣＧＩＨ／ＴＷＡ　記載なし

保護具　：呼吸器　保護マスク

手　　保護ゴム手袋
目　　保護眼鏡
皮膚及び身体　保護衣

９．物理的及び化学的性質

形状　：液体　　色　：白色乳化
臭い　：柑橘系臭　　ｐＨ（at25℃）：4.5 － 5.5
沸点　：未測定　　融点：未測定
引火点：５７．１℃以上　　自然発火温度：データなし
燃焼範囲：データなし
蒸気圧：水と同様　　蒸気密度：データなし
比重(at25℃)：１．０－１．１
溶解度：水に可溶　　オクタノール／水分配係数：データなし
分解温度：データなし

１０．安定性及び反応性

安定性：通常の取扱い条件下では安定である。
反応性：強酸化剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件：高温、直射日光
混触禁忌物質：強酸化物質
分解による有害性：特になし

１１．有害性情報

急性毒性LD50：実測値はないが、成分から推定した値では2000mg/Kg（ラット経口）以上。
皮膚腐食性・刺激性：
・硝酸ナトリウム
EPA RED(1991)に72時間後にmildsまたはlightの刺激性との記載があることから区分外(国連分類の区分3)とした。
・１－メチル－４－イソプロペニル－１－シクロヘキセン
ヒト(パッチテスト)において、刺激性が72時間継続し、経皮暴露(2時間)によって火傷、そう痒、痛み、紫斑発疹がみられた(CICADs (No.5, 1998))。ウサギの試験(OECD TG 404)において、皮膚一次刺激指数が8ランク中3.5位を示した。以上の結果およびEU分類でR38(区分2または3相当)である(EU-AnnexI, access on 12. 2008)ことから、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：
・硝酸ナトリウム
角膜混濁が生じ72時間以内に回復した(EPA RED (1991))との記載により区分2Bとした。
・フェニルグリコール
ウサギを用いた眼刺激性試験において、Draize scoresが角膜０、虹彩5、角膜8-14との報告があり（SIDs (Access on November. 2008)）、EU分類ではR36（EU-Annex I(Access on November. 2008)）であるため区分2Ｂとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：
・１－メチル－４－イソプロペニル－１－シクロヘキセン
（呼吸器感作性）データなし。
（皮膚感作性）ヒト(パッチテスト)において、10-15分で感作性がみられ(CICADs (No.5, 1998))、モルモットによるMaximization testにおいて感作性が認められた(CICADs (No.5,

1998))。以上の結果およびEU分類においてR43(区分1相当)(EU-AnnexI, access on 12. 2008)、DFGにてSh(MAK/BAT (2007))であることから、区分1とした。

生殖細胞変異原性：

・硝酸ナトリウム

In vivo試験でマウスの骨髄を用いた小核試験で陽性であること(IARC Vol.94(2010), ECETOC TR27(1988))から区分2とした。同じ報告でラットの染色体異常は陽性、マウスの染色体異常では明らかな陽性結果は得られていない((ECETOC TR27(1988))元文献確認済 Mutat Res 155, 121-125(1985))。In vitro試験ではエームス試験で陰性、陽性、培養細胞を用いた染色体異常試験で陽性の報告(IUCLID (2000))がある。

発がん性：情報なし

生殖毒性：

・フェニルグリコール

マウスの経口投与による2世代繁殖試験の結果、親に一般毒性が示された用量で、新生児体重の低値及び新生児死亡率の上昇が認められた（ＮＴＰ DB (1989, 1984)）との記述があるため区分2とした。なお、ウサギを用いた器官形成期に経皮曝露した試験の結果、親に毒性症状が示された用量で、仔に対する影響はなかったとの記述がある(SIDs (Access on November. 2008))。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露：

・硝酸ナトリウム

硝酸ナトリウムを食塩と誤って摂取した１５人の兵士がメトヘモグロビン血症になり約15gを摂取した１3人が死亡し、5gを摂取した2人が生存した(ECETOC TR 27(1988))ことから区分1(血液)とした。

・フェニルグリコール

ラット及びマウスを用いた経口投与試験において、一時的な昏睡、不活発、運動失調が認められたとの記述があり（SIDs (Access on November. 2008)）、当該物質は麻酔薬に使用されているため（HSDB (2003)）区分3（麻酔作用）とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露：

・硝酸ナトリウム

水溶性硝酸塩一般についての慢性毒性として、硝酸塩を含む食事、水を摂取した幼児にメトヘモグロビン濃度の上昇が多数報告されていること、利尿剤として硝酸ナトリウム、硝酸アンモニウムを、尿路結石防止剤として硝酸アンモニウムを投与された患者にメトヘモグロビン血症がみられる(ECETOC TR27(1988))ことから区分1(血液)とした。このほか硝酸塩の影響として心臓等への影響が報告されているが、メトヘモグロビン血症による酸素欠乏の二次的影響(EHC 5(1978))と考えられる。

吸引性呼吸器有害性：情報なし

１２．環境影響情報

水生環境有害性（急性）：

・１－メチル－４－イソプロペニル－１－シクロヘキセン

甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50 = 0.421 mg/L (NICNAS, 2002) から、区分1とした。

・硝酸ナトリウム

魚類（マスノスケ）の96時間LC50=5800mg/L (ECETOC TR91、2003)

・フェニルグリコール

魚類（ファットヘッドミノー）の96時間LC50 = 344 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）の48時

間EC50＞500 mg/L、藻類（セネデスムス）の72時間EbC50＞500 mg/L（いずれもSIDS, 2006）から、区分外とした。

水生環境有害性（慢性）：

・１－メチル－４－イソプロペニル－１－シクロヘキセン

急性毒性区分1であり、急速分解性でない（BIOWIN）ことから、区分1。

・硝酸ナトリウム

難水溶性でなく（水溶解度=7.30×105mg/L（PHYSPROP Database、2005））急性毒性が低いことから、区分外とした。

・フェニルグリコール

難水溶性でなく（水溶解度=28.9g/L（SIDS, 2006））、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

生態毒性：データなし

残留性・分解性：データなし

生体蓄積性：データなし

１３．廃棄上の注意

水質汚濁防止法（生活環境項目）及び下水道法（下水の排除の制限）に該当しますので、河川、下水等にそのまま排出しないでください。引火性のある溶液ですので下水などに捨てることは出来ません。

本製品を廃棄する場合は、「特別管理産業廃棄物（廃油）」に該当しますので、廃液を処分依頼する時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「都道府県条例」に従い、当該廃棄物を処理する産業廃棄物処理業として、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に、運搬、処理を委託してください。

汚染容器及び包材：内容物を完全に除去した後に処分してください。

１４．輸送上の注意

自動車、鉄道輸送は消防法による。

船舶輸送は危規則による。

国連番号：１９９３

国連分類：引火性物質（引火点＞23℃、＜61℃）

容器等級：Ⅲ

１５．適用法令

安衛法：非該当

化管法：非該当

毒劇法：非該当

化審法：優先評価物質　ｄ－リモネン

危規則：引火性液体類

消防法：非危険物（データベース登録済み）

海防法：海洋汚染物質

１６．その他の情報（引用文献等）

独立行政法人　製品評価基盤機構　「化学物質総合情報提供システム（CHRIP）」

「GHS分類対象物質一覧」

本シートの内容は発行時における知見に基づいて作成したものです。作成の目的は製品の安全に関わる情報を提供するものであって、性能・品質を保証するものではありません。記載事項は今後の知見により改訂されることもあります。記載内容の内、含有量・物理的及び化学的性質などの値は保証値ではありません。注意事項は通常の取扱い対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点をご考慮願います。危険・有害性の情報は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。